

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370268

研究課題名(和文)大西洋を横断する英国予約購読出版詩集：18-19世紀読者層の拡大

研究課題名(英文) Collections of British Poetry Published by Subscription Which Crossed the Atlantic: Expanding Networks of Readers in the 18th and the 19th Century

研究代表者

小林 英美 (Kobayashi, Hidemi)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：70277862

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：18-19世紀の予約購読出版詩集に着目した若手研究(B)と二つの基盤研究(C)(2007-2010年、2011-13年)を基盤に、英国の予約購読出版詩集のアメリカでの受容を、大西洋横断の文学研究手法を援用して行った。初年から3年目までは、毎年約2名-5名の詩人の定期刊行物書評を研究した。その結果、書評の転用、論調の変遷、一世代後の再評価等が明らかにできた。4年目は予約購読出版を利用した会員制有料読書施設という読者網のアンプ的环境まで研究を進め、定期刊行物と連動して文学思潮の国際的伝播に貢献したその役割の重要性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：It is a research developed from Grant-in-Aid for Young Scientist(B type) and Grant-in-Aid for Scientific Research (C type, 2007-10 and 2011-13). The main issue of the project was reception of 18th and 19th century British poets, who used subscription, in America. The research was done by comparing contemporary periodical reviews in Britain and America, using Transatlantic literary theory. Each year, about two to five British poets were chosen and the reviews on American periodicals were analyzed. Diversions of reviews from British ones, transition of tones of reviews, and reevaluation of poems/poets after a generation were revealed. In the final year, the research shed light on the relationship between periodicals, subscription editions and subscription libraries, which played important roles as amplifiers to expand international networks of readers in various communities.

研究分野：英国ロマン派文学

キーワード：英国ロマン派文学 予約購読出版 読者層 定期刊行物 詩集 書評 アメリカ 大西洋横断の文学理論

1. 研究開始当初の背景

18世紀末から19世紀前半にかけての英国ロマン派時代の文学研究において、同時代の読者層と文学の相互関係を解明することの重要性は、昨今の研究成果によって揺るぎないものとなってきた。受容理論や歴史主義理論等の立場から、古くはRichard D. Altickの *The English Common Reader* (1957)、Jon P. Klancher の *The Making of English Reading Audience, 1790-1832* (1987) が代表的なものであったが、新たな歴史的研究成果や女性詩人研究の成果等を基盤にして、一層多面的かつ精緻な考察がなされるようになってきている。特に受容理論の流れを組む研究は活発に発表されてきており、例えばLucy Newlyn の *Reading, Writing, and Romanticism* (2000) では、読者の作品受容の有様に翻弄される作家の創作姿勢が事例ごとに具体的に検証されて高く評価されている。またこれと同様な傾向の研究では、Andrew Frantaの *Romanticism and the Rise of the Mass Public*(2007)などが続いており、対象となる詩人・作家に広がりを見せているだけでなく、後述の書誌学的研究の成果を大きく反映するものになっている。

一方、実証的な歴史的検証をともなった文学研究には、William St.Clairによる *The Reading Nation in the Romantic Period* (2004) があり、同時代の書籍取引帳簿をはじめとする貴重な一次資料の分析をもとにして、文学作品と読者と出版業者の相互依存関係に新たな視点を提供し、この分野の研究の重要な指標となっている。このSt.Clairのような研究の基盤となる歴史的書誌学研究書も著されており、例えばRichard B. Sherの *The Enlightenment and the Book Scottish Authors and Their Publishers in Eighteenth-Century Britain, Ireland and America*(2006)は18世紀のスコットランドの作家と出版者に焦点を絞って論じ、James

Raven は *The Business of Book* (2007)で、最新の資料と調査結果をもとにして、15世紀半ばから19世紀半ばまでの出版史を説明し、2010年には、Michael Suarez SJとMichael L. Turner共編 *The Cambridge History of the Book in Britain: Volume 5, 1695-1830*が刊行されるに至っている。これは同時代の歴史的書誌学研究書の決定版と言え、今後の同分野の文学研究にとって最も重要な羅針盤となるものである。

以上のように歴史的実証をともなった文学研究は、国内外で充実度を増してきてはいるが、充分とは言えない研究課題もいくつか存在する。そのうちの一つは、前掲の先行研究書においてさえもほとんど考察されていない、予約購読出版を中心にした読者層と文学の相互影響関係という課題であり、本研究代表者が1997-98年に日本学術振興会特別研究員として英国オックスフォード大学に留学した際に基礎研究を開始し、若手研究(B)「英国18-19世紀の予約購読出版を利用した読者と作家と出版者についての歴史的文学研究」で研究を進め、さらに基盤研究(C)「英国18-19世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割」で継続的に考究してきた課題でもある。

予約購読出版と文学との影響関係の研究は、ロマン派時代に先行する18世紀前半に関しては、上流階級パトロンとの役割の観点からすでに研究が進められている。しかし18世紀末から19世紀前半にかけては、ロマン派研究の権威であったJonathan Wordsworth教授や、前掲 *The Cambridge History of the Book in Britain*の編者の前掲Suarez教授らも、その重要性を認めるところでありながら、内外を問わずほとんど未開拓である。ゆえに本研究は国際的にも意義のある課題と言える。そこで若手研究(B)では、一次資料の収集とその精査を行うと同時に、未着手の事例研究を行った。事例研究は、文学史において主流となる

詩人に影響を及ぼした詩人と読者層の相互関係を一次資料から明らかにするものであった。具体的には下層階級女性詩人Ann Yearsleyとスコットランド女性詩人Joanna Baillieの二人であり、それぞれの周辺の読者層と出版業者との相互関係の重要性を、予約購読出版の活用状況から考察した。いずれもわが国ではあまり研究されていない詩人であったので、国内での研究発表では、これらの詩人の文学的重要性を国内の研究者に認知させる意義も果たせたと考える。また2006年度のイギリス・ロマン派学会シンポジウムは、読者層と文学に関するもので、応募者が発題・司会進行を行ったが、ここでも同時代文学と読者層の関係についての研究の重要性を訴えることができたと考える。

以上の研究成果を踏まえて、平成18 - 22年度基盤研究(C)「英国18 - 19世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割」では、若手研究(B)を通して明らかになった予約購読出版と文学サークルの相互関係の重要性に着目して研究した。予約購読出版という形態を利用した詩人や読者の基盤に、文学サークルが存在する事例が多いことが、これまでの研究から判明してきたからであり、特にスコットランド啓蒙主義が英国の文芸サークルすなわち読者と文学に及ぼした影響がすこぶる大きかったことも明らかになった。具体的にはRobert Burns, Anne Grant, Janet Little, Charlotte Smith, Helen Maria Williamsらに関わるサークルと人脈を、予約購読者一覧の分析によって明らかにし、学会発表した。なお、2010年末には欧米言語文化学会において、応募者が発題・司会進行して、アメリカ文学研究者も交えたシンポジウムを行った。その結果、読者の人脈やサークルと文学の関係についての研究テーマが、英国にとどまる狭い問題ではなく、拡大・深化していく可能性の高い、継続性のある研究であることを明らかにでき、その成果としての書籍

を来年刊行すべく、他のパネリストとともに進めることになった。上記の研究までは、出版前の状況に焦点をおいて研究してきたが、平成23 - 25年度基盤研究(C)「英国18 - 19世紀予約購読出版詩集と定期刊行物におけるその書評についての研究」では、出版後の評価、特に同時代定期刊行物における書評に現れる読者の反応に焦点をあてた。この研究をとおして、予約購読形式出版詩集の支援者と定期刊行物の書評者の思想的相違・相似とそれが暗示する意味(政治・思想的立場の相違の反映や、詩人・予約者間の人間関係等の変化、文学的嗜好の相違等)の考察、書評前後の文壇での詩人の評価の変化等の考察を、これまで研究対象としてきた女性詩人を対象にして行った。具体的にはHelen Maria Williams, Charlotte Smith, Anne Grant, Janet Little, Elizabeth Hands, Felicia Hemansである。なお、その成果の一部は2013年欧米言語文化学会において、以前とは異なるアメリカ文学研究者を交えたシンポジウムを、応募者が発題・司会進行して再び行い、本研究テーマの発展性を確認することができた。

2. 研究の目的

本研究は、以上の成果をふまえた発展・継承的なもので、Eve Tavor Bannet and Susan Manningが2012年に編んだ*Transatlantic Literary Studies*(大西洋横断の文学研究)で多彩に示された諸研究者の最新の知見を導入して、国際的な視点を付与する目的がある。前掲書に参加している研究者の中には、これまでも本研究代表者に様々な示唆と知見を提供してくれたものがあり、特に詩集についてはJoel Pace教授が、英国ロマン派詩人のアメリカでの受容について、また出版流通と文学の関連については、Richard B. Sher教授が知見を提供してくれてきた。この大西洋横断の文学研究の観点を応募者の研究に導入することによって、18 - 19世紀英国の予約購読出版形式の詩集における読者層研究を、英国に

限ることなく海外英語圏へ視野を拡大し、今回は特にアメリカの購読者層に焦点を絞り、読者ネットワークの拡張性と、英国文学作品の伝播と影響に予約購読出版が担った役割を探るものである。研究の継続性から、考察対象を詩集とするが、女性詩人に限定していた前回までの研究と異なり、今回は男性詩人の詩集も対象とする包括的な考察を行った。

アメリカ人予約購読者層データの収集・分析をすすめながら、アメリカの定期刊行物書評を分析することによって、文学思潮にどのような形で「対英国」の政治的・民族的意識あるいは「大西洋横断の対抗・帰属意識」が表れているかを考察することが究極的な目的となる。

3. 研究の方法

18 - 19世紀の定期刊行物関係の資料、研究対象とする詩人に関する資料、同時代社会史・文学関係の資料を補充しつつ、予約購読出版形式詩集の海外予約者一覧の分析と定期刊行物(英国内外)における書評を通じた読者の反応についての研究を行った。研究対象とする詩集は、これまでの分析経験から、1年におよそ2～5編の詩集を抽出した。なお Anne Grant の詩集の分析については、すでに別の観点から実施しており、その際に得た知見からアメリカとのつながりが強いことが分かっているので、本研究テーマの最初に実施した。利用する研究文献の多くはEighteenth Century Collections Online (ECCO)やHathi Trust Digital Library等を通して電子化された資料を国内で閲覧できたが、海外の図書館(大英図書館とオックスフォード大学ボドリアン図書館等)で実物を確認する必要があるものもあった。そこで研究調査対象の存在を確認した上で、2回に分けて調査した。なお研究成果は随時学会で発表し、研究者と意見交換を行った。

平成26年度

Anne GrantとElizabeth Handsの詩集の事

例研究

海外の図書館での資料収集

研究成果の発表

平成27年度

Anna Maria JonesとJane Westの詩集の事例研究

研究成果の発表

平成28年度

Mary Robinson, Helen Maria Williams, Felicia Hemans, Joanna Baillie, Anne Yearsleyの事例研究

研究成果の発表

平成29年度

Thomas ChattertonとCharlotte Smithの事例研究

予約購読形式出版を利用した会員制有料読書施設の事例研究

海外の図書館での資料収集

研究成果の発表

調査研究の総括と報告書の作成

4. 研究成果

18-19世紀詩集の予約購読出版に着目した若手研究(B)と基盤研究(C)(2007-2010年、2011-13年)を土台にして、英国の予約購読出版詩集のアメリカ大陸での受容研究を、大西洋横断の文学研究の手法を援用して行った。初年度はElizabeth HandsとAnn Grant、2年度目はAnna Maria JonesとJane West、3年度目はMary Robinson, Helen Maria Williams, Felicia Hemans, Joanna Baillie, Anne Yearsleyのアメリカでの受容を同時代定期刊行物書評から研究した。その結果、書評の転用、論調の変遷、一世代後の再評価等が実証的に明らかにできた。そして研究計画の最終年度は、海外での資料収集と文献研究、それと連動する前年度選定の予約購読出版形式詩集の研究と、定期刊行物書評の精査・分析の研究成果を学会で発表することで、研究を総括するものとなった。まず予約購読出版詩集の研究は、前年度に予定数よりも多く

の調査ができたので、Charlotte Smith と Thomas Chatterton を主体にして、必要に応じて追加調査を行い、海外読者の動向を明らかにできた。次に海外での定期刊行物書評資料収集を、オックスフォード大学ボドリアン図書館で行った。例えば 19 世紀アメリカの連邦派の *The Port-Folio* 誌等での英国詩集の書評を精査し、そこに同時代英国の保守系の文学観の典型があることがわかり、他のアメリカ定期刊行物書評とともに、前年度の研究で明らかにできた「文学受容の時差」解消の動きが、別角度から明らかにできた。またその機会を活用して、同時代英国内外の会員制有料図書館蔵書目録から、定期刊行物所蔵状況と掲載書評の調査も並行実施できた。具体的には、英国ノッティンガムの Bromley House やアメリカの Boston Library である。

以上から、図書購入のために予約購読出版も利用していた会員制有料読書施設という、読者網中核にあって読者を増幅するアンブ的环境において、定期刊行物と詩集書評が出会う化学反動的な効果が、文学思潮の国際的な伝播において実は重要な役割を担っていたことが明らかにできた。

また、この英米の定期刊行物と読書施設そして予約購読出版を利用した読者層の立体的比較研究を通して、文学思潮の共有と相違の個別事例が検証でき、そこに表出するアメリカ読者の「対英国」の政治的・民族的意識あるいは「大西洋横断の対抗・帰属意識」を状況証拠的に突き止めることもできた。

本研究テーマは、19 世紀大西洋横断の読者・出版そして文学思潮研究の観点に限定したが、その方法論は他の時代・地域の独立国家形成期の言語文化研究にも応用でき、国際的な文化交流・受容研究の発展に寄与する事例研究としての意義もあると考える。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

小林 英美、予約購読者一覧にみる読者・支援者網 ヘレン・マライア・ウィリアムズとシャーロット・スミス の詩集の事例研究、茨城大学教育学部紀要(人文・社会科学・芸術) 査読無、64号、2015、pp.11 - 20

〔学会発表〕(計3件)

小林 英美、国際化する文芸批評と読者網 予約購読出版と読書施設の役割、欧米言語文化学会第136回例会、2018.3.11、日本大学

小林 英美、19世紀イギリス詩の同時代アメリカ定期刊行物での書評、欧米言語文化学会第133回例会、2016.12.4、日本大学

小林 英美、定期刊行物での予約購読形式詩集の書評 読者拡大の意図、欧米言語文化学会第129回例会、2014.12.7、日本大学

〔図書〕(計3件)

小林 英美 他、音羽書房鶴見書店、読者ネットワークの拡大と文学環境の変化 19世紀以降にみる英米出版事情、2017、316

小林 英美 他、音羽書房鶴見書店、知の冒険 イギリス・ロマン派文学を読み解く、2017、295

小林 英美、勉強出版、ワーズワスとその時代 『リリカル・バラッズ』と読者たち、2015、339

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 英美 (KOBAYASHI, Hidemi)
茨城大学・教育学部・教授
研究者番号：70277862

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()